



中高生世代広場 第2クール（子ども・コミュニティ食堂） 第1回、第2回実行委員会での意見や疑問など



★参加しやすさ

- ・雰囲気分からないので初参加のハードルは高そう
- ・初参加の人が会話の輪に入り易くする為にどんな工夫をしているか
- ・新規メンバーと固定メンバーの比率はどの程度か
- ・参加者のつながり具合（ガチガチだと新しい人が居心地悪い？）
- ・予約制だと決まった人数しか来ない、自由参加だと人が来すぎるor全然来ない
- ・どういう人に来てもらいたいのか。どうしたら中高生が行くか？（地元と携わるか）
- ・食堂の中では何でもしてよいのか
- ・様々な年代の人が楽しめるイベント
- ・学生のお手伝いは受け付けているか
- ・こども食堂に行かない理由→こども食堂でやることがない、周りの人が行っていない
「自習室+食堂」…勉強をしに行って夕食も食べられる→中高生が行きたいと思える
- ・食事だけでなく居場所として提供。宿題したり、他の世代と話したり。
- ・夕食だと親に断りをいれなきゃいけないくてハードル高いかも
- ・お茶する会のほうが行きやすそう
- ・お菓子づくりなどができると行ってみたい
- ・コミセンと同じ役割を持つ食堂
- ・事業のプラットフォーム。探したい人も事業者も情報共有できるように。
- ・年に何回か市内の子ども食堂が集まって、話し合えるワークショップをひらく
- ・外国の方の参加状況は？宗教上の理由で食べられない食品（メニュー変更の必要有？）
- ・アレルギーがある人たちにはどのような工夫をしているのか

★周知方法

- ・どのような人をターゲットにどのように周知している？
- ・子どもに伝えるように何をしているか
- ・色々な施設にこども食堂のポスターをはったらいと思う
- ・学校と連携して気になる子に声をかけてみる。
「ある」と存在だけでも知ってもらおう。来たい時来れる準備。
- ・学校でチラシを配ってもらえると目は通すかも
- ・拡散力→主婦（お母様方）のコミュニティーを狙う？
- ・ネットだと興味のある人にしか届かないこともありそう
- ・facebookは使わないと思う。ツイッターのほうが若い人は使うかも
- ・動画作成（雰囲気が伝わるような）
- ・パンフレットに利用者の声をのせる
- ・周知がいまいち行き届いていない。合同イベント可能？

☆開催日（頻度）

- ・月1で本当に“ニーズ”に届くのか
- ・どうしてその頻度に決めたのか
- ・他の食堂との連携。子ども食堂カレンダー。メニューも。

☆運営について

- ・団体により雰囲気が大分違うと感じた
- ・どのようにして、料金をタダで（安く）できているのか
- ・フードロスとのタッグ。地域のスーパー、農家などとの協力
- ・母体がNPO、お金はどこから？
- ・ビジネスとして成り立った方が続くのでは？
- ・フードバンクは利用しているか
- ・払える人は払う。できる範囲で資金面の協力
- ・1人蒸しパン1個とかでもいい
- ・子育てが一段落ついた主婦へのオファー。完全ボランティアは厳しいのでは。
- ・栄養士や飲食店、調理師志望の人の経験の場
- ・駅近・バス通りの立地の活用法
- ・市など公共団体の立場からは何ができるのか？

☆貧困について

- ・団体によりニーズのとらえ方に差がある
（貧困のみをニーズととらえるかどうか）
- ・貧困じゃなくても行っていいことを知った
- ・子ども食堂に行くことがレッテル貼りになってしまう
- ・「『子ども食堂』＝貧困」のイメージが染みついている。
→名前をかえるか、イメージを変えるか？
- ・「子ども食堂」ってするといじめの原因に…
- ・生活に困っている人が意外といっぱいたことに驚いた
- ・子ども食堂では、食堂に対する偏見のようなものを感じたことはあるか